

GlobalResearch
August 10, 2023

和平を結べ、愚か者ども！

アメリカの対ロシア代理戦争がウクライナを墓場に変えてしまった

[Make Peace, You Fools!
America's Proxy War with Russia Has Transformed Ukraine into a
Graveyard.](#)

By Douglas Macgregor*

*退役大佐。 トランプ政権で国防長官顧問を務めた。

1．漸進主義と戦略的防衛

戦争において、漸進主義－Incrementalism とは、大胆なやり方を取らず、一歩ずつじりじりと前進する戦法を指す。それは通常、戦争における政治的・軍事的指導者に好まれる。

なぜなら、戦力を少しずつ投入することで、その場その場で危険にさらされる人員が少なく済むからである。

また理論的には、双方の消耗を通じて、時間の経過とともに一連の改善が見通せるからである。

1950 年夏、統合参謀本部は朝鮮半島南端の海岸線に沿った短い防衛線を推奨した。釜山境界線として知られる。この計画は当時の議長であった J・ロートン・コリンズ大將が主導した。

それはノルマンディー作戦のような作戦を展開するのに十分な兵力を編成するための時間稼ぎであった。そして米軍と連合軍の防衛線を徐々に、北方・西方に拡大するよう設計された。

しかし、陸軍総司令官ダグラス・マッカーサーはこれに反対した。彼は、釜山を包囲している 38 度線以南の北朝鮮軍を断ち切るために、大胆な新戦線形成を主張した。

結果的に、マッカーサーは正しかった。

極度に狭い包囲網を形成することは、北朝鮮司令部が敗北も覚悟の上での賭けであった。今日、我々はそのことを知っている。

振り返ってみると、北朝鮮が中国の同盟国とともに、第二次世界大戦中の米軍と連合軍の作戦行動を熟知していたことは確かである。

アイゼンハワーは、フランスとドイツを縦断して中央ヨーロッパに至るまで、数百万の軍隊を複数の軍隊で並行して移動させる広域戦線戦略に固執していた。それは「低リスクの戦闘」公式に従ったものだ。

このような歴史を踏まえれば、「マッカーサーが軍を分割して北朝鮮戦線のはるか後方に水陸両用攻撃を仕掛けることはない」と北朝鮮側が考えるのは妥当なことだった。それはあまりにも危険だったからだ。

また、インチョンの作戦コンセプトは、南北戦争や第一次世界大戦で米軍が採用した方法とも矛盾していた。米軍はいつも機動ではなく消耗戦で勝利した。

2. プーチン戦略の転換とその理由

2022年2月、プーチン大統領は、ウクライナにおける「特別軍事作戦」へのアプローチにおいて漸進主義を選んだ。

プーチンは10万名近いロシア軍を、テキサス州ほどの大きさの国へ投入し、広い戦線での浅い浸透攻撃に着手した。

15年近く、ワシントンと西側諸国に、「NATOの東方進出にモスクワは反対だ」ということを説得し続けた。しかし結局プーチンはそれに失敗し、こう結論づけたようだ。

「ワシントンとNATOの同盟国は、核兵器レベルにまでエスカレートする可能性のある破壊的な地域戦争よりも、即時の交渉を好むだろう」

プーチンは間違っていた。彼は合理的選択理論に基づいて、誤った判断をしたのだ。

合理的選択理論とは、経済、政治、日常生活において、個人は習慣的に自分の最善の利益に沿った選択をするという理論である。そしてその仮定に基づいて、人間の行動を予測しようとするものである。

この理論の問題点は、人間は理性的ではないということだ。実際、人間の心はブラックボックスのようなものだ。

ブラックボックスの中に何がインプットされ、そこからどのような決断が下されるかを観察することは可能だが、ブラックボックスの中で展開される実際の意思決定プロセスは不透明（ブラック）である。

国際関係や戦争においては、歴史、地理、文化、宗教、言語、人種、民族といった人間のアイデンティティを定義する特徴も、戦略的評価において重要な位置を占める。

例えば、文化、経験、生来の性格などの思考基盤からみて、マッカーサーはリスクを冒す人であった。

ピーター・ドラッカーが読者に思い起こさせるように、文化は人的資本の基盤である。それえが現実なのだから、「合理的選択理論が生み出す非現実的な期待」は打ち碎かれるのが当たり前なのである。

ワシントンは交渉のテーブルに着こうとせず、その代わりに、ロシアの保有する核兵器の有効第一撃能力を推定した。その結果、これまでのアメリカのモスクワとの取引の指針も警戒心も捨て去った。

ワシントンの政治家層は、ロシアや東欧に対する何の理解もなしに、「ロシアは“核兵器を持つガソリンスタンド”である」という故ジョン・マケイン上院議員の考えを信奉していた。

3．プーチンの「戦略的防衛」への方針転換

プーチンはマッカーサーのようなリスクテイカーではない。しかし彼は漸進主義を捨て、ロシア軍を**戦略的防衛**（the strategic defense）に急速に方向転換させた。

これは、ロシア軍が攻撃作戦に復帰するまでの間、戦線を後退させつつミサイル攻撃を継続する作戦である。それはウクライナの損失を最大化する一方で、ロシアの損失を最小化するために考案された戦力の節約策である。

ロシアの戦略変更は功を奏した。ウクライナ軍に最新兵器、資金、外国人戦闘員、重要な情報が前例のないほど投入されたにもかかわらず、ワシントンの代理人は粉々に打ち碎かれた。

ウクライナの病院は傷ついた人間であふれかえり、戦場にはウクライナ人の死体が散乱している。

かくていまや、キエフは生命維持装置につながれた心臓病患者だ。

4．プーチン新戦略の成功が紛争をより危険なものにしている

ロシアのいどんだ消耗戦は目覚ましい成功を収めた。しかしその成功は、現在の紛争を 2022 年 2 月に始まって以来のどの時点よりも危険なものにしている。

なぜか？

防衛作戦では戦争に勝てないからだ。そしてワシントンは今もなおウクライナが勝てると信じ続けているからだ。

ワシントンはウクライナの損失を軽視し、ロシアの損失を誇張している。国防総省の会議に出席していた将校によれば、4 つ星司令部、ホワイトハウス、フォギーボトムで行われる議論では、ウクライナの戦場での些細な成功

が大きく取り上げられているという。ただしそれはほとんど即座に覆される。

(Foggy Bottom is a [neighborhood](#) of [Washington, D.C.](#), located in [Northwest D.C.](#) Stretching west of the [White House](#) towards the [Potomac River](#), the neighborhood is home to numerous [federal agencies](#) (such as the [State Department](#) and the [Federal Reserve](#)) and international institutions (such as the [World Bank](#) and the [International Monetary Fund](#)), while the core of the neighborhood is occupied by [George Washington University](#).)

Wikipedia

こうした報告は、ウクライナの勝利が不可避であることの揺るぎない証拠として扱われる。このような風潮が主流を占めるから、幕僚たちはロシアの効果的な軍事パフォーマンスや、ロシアの軍事力拡大の影響を強調したがない。

ワシントンはウクライナの損失を軽視し、ロシアの損失を誇張している。

国防総省の会議に出席していた将校によれば、4 つ星司令部、ホワイトハウス、フォギーボトムで行われる議論では、ウクライナの戦場での些細な成功が大きく取り上げられているという。

(その成功はあっさりと覆されるのだが)

こうした報告は、ウクライナの勝利が不可避であることの揺るぎない証拠として扱われる。そんな風潮だから、幕僚たちはロシアの効果的な軍事パフォーマンスや、ロシアの軍事力拡大の影響を強調したがない。

5 . ポーランドが新たな危険の火種となりつつある

ワルシャワは、NATO の反ロシア聖戦のリーダーとしてワシントンで重宝されている。彼らはポーランドがロシアの軍事的弱点を衝くベルトウェイとしての信念に安らぎを見出している。

それだけに、ワルシャワはモスクワとの直接対決のリスクを冒すこともいとわないようだ。

ワルシャワのフランス人情報筋によれば、もしウクライナ軍が追い返されれば、「ポーランド人は今年、ポーランド人、バルト人、そして一定数のウクライナ人を含む第一師団を導入するかもしれない」。

今、ワシントンはワルシャワの動きに関して、モスクワの評価を見誤っている。

ロシアの国家指揮当局は、「ワルシャワの行動はワシントンの意図に沿ったものだ」と考えている可能性が十分ある。

バイデン大統領が、「現在ウクライナに派遣されている米兵」(そこにいるはずのない兵士たち) に危険手当を支給するという大統領令を出した。それは、間違いなくこの考えを補強するものだ。

しかし、可能性としてはるかに高いのは、ポーランドという尻尾が、犬であるアメリカを振り回したいと考えていることだ。

ポーランドは、歴史的な係争地域であるガリシア・ウクライナに軍事介入すれば、ベラルーシとロシアの軍事的反応を引き起こすことを知っている。

ワルシャワは、ポーランド軍が戦いに入れば必ず負け戦となることも知っている。だがその間に、ワシントンのヨーロッパにおける空軍と地上軍が、ウクライナ、ルーマニア、バルト海沿岸の基地にこもり、黙ってポーランド軍の敗北を座視するような真似はしないだろうとも考えている。

アメリカのロシアとの代理戦争によって、すでにウクライナは墓場と化した。ポーランドがロシアとの戦争に熱中するのは、ポーランドが第二のウクライナになろうとするかけ勝負の姿勢の表れだ。

ポーランドがそう考えるようなら、モスクワはウクライナに対して短期決戦を挑み、ロシアの全軍事力を同時に行使する以外の選択肢を失わざるを得ない。時が経てば、西側諸国全体が否応なしに紛争に巻き込まれ、ウクライナ戦争は欧州大戦争に発展することになる。

手遅れになる前に和平を結べ、愚か者どもめ。

Make peace, you fools, before it's too late.